

7月16日(土) 第2回若葉台地区小・中学校再編検討委員会 開催

今回の検討委員会では主に、

- 1 現在の各小中学校の教育内容の特色の報告をもとに、統合校の魅力づくりに向けた話しあい
- 2 各小中学校の施設面での比較検討の報告をもとに、今後の検討の持ち方についての話しあい を行いました。



主な議事

- 1 幼小一貫教育及び中高一貫教育の事例
- 2 統合校の魅力作りに向けて  
～各小中学校の教育内容の特色について
- 3 統合校の検討 ～各小・中学校の施設面での比較検討

第2回検討委員会での協議内容

1 幼小一貫教育及び中高一貫教育の事例について

このことについて、前回の検討委員会で資料要求がありましたので、事務局から説明しました。横浜市では、幼児教育と小学校教育の滑らかな接続を図るために、「幼・保・小教育連携開発モデル校・モデル園事業」を行っています。本年度は、いぶき野地区と並木第一地区でこの事業を展開しており、主な交流内容と成果は次のとおりとなっています。

主な交流内容	成果
小学校の授業、幼稚園・保育園の保育参観	幼児から小学生への憧れが、児童から幼児への優しさが醸成された。
教諭・保育士の、園児・児童の交流活動	児童の学習意欲向上が見られた。
保育士・教諭の小学校教育への、保育への参画	保育士・教諭が子どもの発達と学びの連続性を確保した教育のあり方に共通理解を持った。
保育士・教諭の合同研修、園児・児童の合同授業	
園児保護者の小学校授業参観	

また、中高一貫教育については、学校教育法に基づき次のような実施形態で行うことができ、全国で平成16年までに153校が設置されています(このうち、公立は107校)。なお、必ずしもこの制度によらず、お互いを訪問し授業等で交流するというような連携の事例もあります。

実施形態	内容	高校入試の有無
中等教育学校	一つの学校において一体的に中高一貫教育を行うもの	無選抜
併設型の中学校・高等学校	同一の設置者による中学校と高等学校を接続するもの	
連携型の中学校・高等学校	既存市町村立中学校と都道府県立高等学校が、教育課程の編成や教員・生徒間交流等で連携を深める形で中高一貫教育を実施するもの	簡便な入学者選抜

～ ご意見・ご質問 ～ (回答はすべて事務局)

霧が丘高校は若葉台に最も近い高校ですが、一貫教育を行うにあたり、設置者が異なることで制度上の障害はありますか。

制度上の障害はありませんが、お互いの設置者の合意が必要なので調整が必要と考えます。霧が丘高校の学区はなくなったのですか。

神奈川県内の公立高校は、昨年度の入学試験から学区を撤廃しています。

2 統合校の魅力づくりに向けて ～各小中学校の教育内容の特色

今年度の各小中学校の教育内容の取組について、各校長から次のとおり報告がありました。

\* 若葉台東小学校 \*

- ・地域の教育ボランティアの協力を得た授業の実施、安全サポーターの協力
- ・主体的に学習に取り組めるような授業、体験学習の実施
- ・学習の基礎基本の確実な定着(重点研究の算数において少人数指導の実施)

- ・異学年との交流（縦割り仲良しグループ活動）
- ・人権教育の推進（個別支援学級と全学級児童との交流、地域の福祉施設との交流等）
- \* 若葉台北小学校 \*
- ・4～6年の宿泊体験学習の展開（場所、時期を同じにすることで異学年交流を図る。）
- ・若北学級を核とした異学年ふれあい体験の推進（5、6年生をリーダーとした活動）
- ・重点研究の推進（一人一人の表現力を伸ばす国語学習を主題にした授業で実践研究）
- ・北っ子まつりへの取組（学習成果を発表する場）
- ・5校との交流事業の推進（学校行事や学年ごとの交流を通じた仲間づくりなど）
- \* 若葉台西小学校 \*
- ・個に応じた支援体制の確立（算数での少人数授業、ティームティーチング、教育相談の充実など）
- ・全学年男女混合グループによる「なかよし班活動」の充実
- ・まちの教育力を活かした教育活動（英語活動、チャレンジタイム（クラブ活動）など）
- ・5校連携、再編に向けての教育活動の工夫
- ・長期休業中の学びの充実（サマーチャレンジ）
- \* 若葉台東中学校 \*
- ・「信頼」を基礎に置く教育の推進（環境教育の充実、学年縦割りグループでの海の教室の実施）
- ・確かな学力の向上（少人数指導の研修と充実、夏季休業中の学習支援、西中との評価についての意見交換と研修）
- ・細やかな教育相談の実施（ストレスチェック、Q-Aアンケートによる生徒の実態調査、学校カウンセラーとの協働）
- ・地域人材の発掘と登用（海の教室への協力、教科指導支援の可能性と実施方法を探る。）
- \* 若葉台西中学校 \*
- ・なりたい自分を探し、なれる自分をつくる学校づくり、自尊感情を育む学びの場づくり（少人数授業、夏季休業中の学習支援、職場講話、職場体験、霧が丘高校体験学習）
- ・常に子どもから出発し、子どもに帰る教育実践、教師は最大の教育環境（生徒による授業評価と指導・評価の改善、教科カードによる学習支援、外部評価、自己点検）
- ・学校で基礎力を培い、まちで実践を磨く、まちの教育力の活用（福祉・環境ボランティア体験、老人会ゲストティーチャーによる平和学習、老人会との交流）

また、若葉台東中学校長から現在の5校の教育内容の取組をまとめると、次のような分類がされると報告がありました。

- ・学校の子どもへの思い（自尊感情・ふれあい、つながり・信頼・思いやり）
- ・まちと学校とのかかわりと思い（まちの教育力を活かした教育活動、安全サポート）
- ・教師の資質向上と学びへのアプローチ（教師への外部評価と自己点検、学びへの情意形成への支援、学びの基礎基本の確立）
- ・同校種と異校種間の交流（行事交流と授業交流）

～ ご意見・ご質問 ～（回答は特記ないところはすべて事務局）

中学校で教育内容が専門化するので、小中一貫教育は行いたい。皆さん希望していると思う。若葉台地区内には保育園が2園、幼稚園が2園あるので、幼・保・小の連携のイメージが持てる資料がほしい。また、若葉台には高齢者施設もあり、文教福祉ゾーンだと捉えている。このような地域特性を義務教育で活かせないだろうかと思う。

幼保小中の一貫教育は事例がないため、若葉台で実践すれば初の事例になると思います。再編後は、個別支援学級はどのようになるのですか。

個別支援学級については、8人以下で1学級を設置します。施設としては、軽度発達障害児のための教室の確保を検討します。

統合することで1学級の人数が増えれば、きめ細かな指導ができなくなるのではないかと不安に思う。1学級を40人未満で学級編成する自治体があるらしいが、横浜市はどうですか。

前回もお話しましたが、現在40人学級については標準法という法令に基づいて実施しており、教職員の人件費を負担する神奈川県が40人未満で学級編成をすると判断すれば、40人未満での学級編成は可能です。横浜市については、現在のところ神奈川県が40人学級を教員定数の基準

にしているため、それ以下の学級編成は行っていません。

少人数指導については、1学級の人数が40人であっても、そのクラスを半分にして授業を展開するなど、授業の持ち方次第で可能です。(校長)

教育内容がたくさんあるとどこに焦点を置くのか分からないので、教育目標はもう少し絞るべきだと思う。また、基礎学力の習得が1番の目標で、次が児童生徒の自信づけだと思う。

再編統合した場合に、例えばある学年の人数が60人(20人×3校)だと再編統合前は3学級だったのが2学級になるので、現状より先生の数は減るのではないですか。

ご指摘のとおりですが、ある程度の規模の学校になれば、教員人数は学級+2人程度の余裕があります。また、学校が行う教育内容に応じてアシスタントティーチャーを派遣するなど市としての支援もあるので、学級数が減ったからといって一概に全体としての教員数が減るわけではないことをご承知おきいただきたい。また、先日文部科学省が保護者、教員に対して行った調査によると、児童生徒に身につけてほしい力は、1番目が基礎的な学力、2番目が人間関係を築く力、3番目が自ら学ぼうとする意欲、4番目が善悪を判断する力でしたが、このような中、児童生徒が成長するにはある程度の集団が必要であると考えています。

パイオニアスクールよこはまに指定されると教員の補強はありますか。

正規の教員定数の増はありません。ただし、教員の免許に関する法令の中に、免許がなくても単独で授業を行うことができる特別非常勤講師という特例があるので、そのような講師の配置や、地域ボランティアの方々への謝金などの支援をしています。

様々な幼稚園で育った子どもが集まるのがいいと思うので、幼小の連携は必要ないと思う。西小で行っているチームティーチングについて教えてほしい。

1人の教師が主で教えてもう1人が補助をするという授業の持ち方です。

再編統合校での教育方針には、保護者の意見を取り入れてほしい。また、現在各小中学校が行っている教育内容を十分活かしたものにしてほしい。

皆さんには団体を代表して参加していただいているので意見の集約に努めてほしい。(委員長)

### 3 統合校の検討 ~ 各小中学校の施設面での比較検討

再編統合校の設置場所を検討するため、各校の施設面での比較について事務局が説明した後、意見交換を行いました。

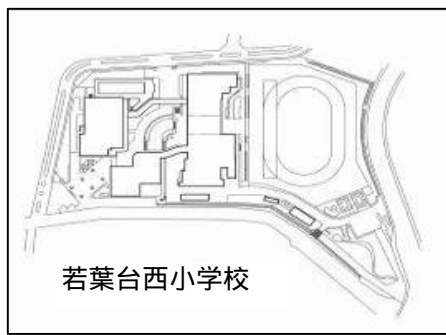
敷地面積について、小学校は18,000㎡以上、中学校は26,000㎡以上と非常に広く、グラウンドも小学校は概ね150m、中学校は200mトラックが取れています。構造は、すべての学校が鉄筋コンクリートで、若葉台東中学校については校舎の一部に耐震補強を行う必要がありますが、その他の学校については不要です。また、現在新設校を設置する際に用いている施設整備水準の充足については、若葉台西小学校については今後も検討が必要ですが、その他の学校については改修あるいは増築工事を行うことにより可能です。

	若葉台東小学校	若葉台北小学校	若葉台西小学校	若葉台東中学校	若葉台西中学校	
敷地面積(㎡)	19062	19666	18014	27772	26833	
校舎面積(㎡) 1	6869	5238	5414	6465	4897	
構造・階数	鉄筋コンクリート・3階	鉄筋コンクリート・4階	鉄筋コンクリート・3階	鉄筋コンクリート・4階	鉄筋コンクリート・3階	
H17年度学級数	6	6	7	6	7	
〃 個別支援学級数	2	1	2	1	2	
保有	普通教室	24	18	17	20	14
	個別支援	2	2	2	2	2
	特別教室 2	8	6	7	11	9
	多目的室	7	3	1.5	3.5	0
施設整備水準の充足	改修工事により可能	増築・改修工事により可能	完全な充足は要検討	改修工事により可能	増築・改修工事により可能	
耐震補強 3	不要	不要	不要	要	不要	
付属施設	コミュニティハウス	保育所分園	なし	なし	なし	

1 小学校については給食室を、中学校については体育館・格技場等を含まない施設台帳上の面積です。

2 特別教室は、理科室、音楽室等を示します。

3 東小は耐震診断(H8年実施)の結果不要であり、北小・西小・西中は新耐震基準で設計のため、不要です。



内：増築  
可能部分

～ ご意見・ご質問 ～ (回答は特記ないところはすべて事務局)

新施設整備水準によると多目的室はいくつ必要ですか。またどのような目的で使いますか。

小・中学校共に4教室必要で、少人数指導を行う場合などに使います。

今後学校選定部会、跡利用部会などを設けてはどうだろうか。また、教育課程はまず学校で考える必要があると思うので、その検討結果を検討委員会に報告をするなどしてはどうか。

このようなワーキンググループの設置は必要なことだと思う。(委員長)(この意見を基に今後検討)

現在就学している児童生徒のためにも、小規模校の問題は早めに解決していきたい。

平成22年には中学校はまた小規模化が予想されるので、地区外の児童生徒も通えるよう考えて再編統合校の設置場所を考える必要があると思う。中学校は3km以内は通える範囲ということだったが、どうでしょうか。

片道の通学距離については小学校は2km以内、中学校は3km以内を望ましい距離と考えます。

なお、通学区域が隣接する地域においては、2、3校から就学する学校を選べる特別調整学区という制度があります。例えば若葉台に接する地域にお住まいの方から若葉台地区の中学校に通学することをある程度の面的広がりでも総意として希望があった場合に、施設として受入可能であり、また若葉台の地域の皆さんにご理解いただければ、この設定は可能です。

統合校がどこになっても、統合校とならなかった学校の生徒がお客さんになることのないようにしたい。また、中学校は部活動で帰りが遅くなる場合があるので、通学安全についても今後きちんと検討していきたい。

再編統合する際には、統合対象校はそれぞれ学校としての機能を終え、新たな学校を作るという考え方をしています。また、通学安全は別途再確認していきます。

#### 4 次回検討委員会の日程

平成17年9月3日(土) 午後2時から 場所：若葉台東中学校Eホール

#### 若葉台地区小・中学校再編検討委員会の経過、横浜市の基本方針等は

ホームページでもご覧いただけます。

・基本方針等：<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/gakku.html>

・若葉台地区小・中学校再編検討委員会：

<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/shoukibo/index.html>

若葉台地区小・中学校再編検討委員会は、常に皆さまからの御意見をいただいております。

FAXかEメールにて、事務局までご連絡ください。

\*若葉台地区小・中学校再編検討委員会事務局\*

横浜市教育委員会事務局 学校計画課 FAX：045-651-1417

Eメール：[ky-wakabadai@city.yokohama.jp](mailto:ky-wakabadai@city.yokohama.jp)

電話：045-671-3252

